

第 20 回縮小社会研究会の報告

参加者：36 名

時：2013 年 12 月 14 日，14 時—17 時

所：京都大学農学部総合館 W506

1. 「遅れ」の意識、「成熟」の意識 —「縮小社会」への道、その諸方策について—、青野豊一

「GDP が増えなくても、社会経済が縮小しても、物・人・事が地域を巡回することができれば、人は十分幸せである」というのは、これは、「成熟」した社会意識であると言えよう。それに対して、発展、成長をいつも目指している意識は、自らの後進性を強く意識していると言えよう。この「遅れ」と「成熟」という視点から、田舎の人たちや、農民の意識についていろいろと思考してみよう。これは、田舎暮らしの意味について考えることであり、そして、「縮小社会」の社会像とその移行を思考するに通じていることでもあろう。

2. 討論会「縮小社会について思うこと」各分科会および参加者